

目指す学校 「明るいあいさつと笑顔が輝く学校」

～ すべての教職員で すべての子供たちを育てる ～

1 学校教育目標

変化の激しい社会の中で、人と社会、自然環境等と主体的にかかわり、たくましく生きていく児童を育成するために、次の通り、学校の目標と、これを踏まえて育成を目指す資質・能力を設定する。

- ◎ 学び考える力 … 必要な情報を活用して論理的に考え、主体的に問題の解決に向けて取り組む児童（問題解決力）
- 思いやる心 … 友達の良さと自らの良さを認め、人や自然となかよく共生できる児童（人間関係形成力）
- 明るく元気 … 心身ともに充実させ、目標に向かって努力し、最後までやり抜く児童（実践力）

2 目指す学校像

目指す学校像に「明るいあいさつと笑顔が輝く学校」を掲げ、「すべての教職員で、すべての子供たちを育てる」をキャッチフレーズに実現を目指す。

3 中期的目標と方策

(1) 毎日明るく元気に学校生活を過ごす

- 児童の自己有用感、自尊感情の向上（特別の教科 道徳、特別活動をはじめ全教育活動を通して、友達の良さと自らの良さを認め大切に、人や自然となかよく共生できる児童を育てる）
- 体力向上月間（短縄跳び・長縄府中ロープチャレンジ・持久走の取組）

(2) けじめをつけて、最後までやり抜く

- 確かな学力の定着を図る（校内研究・研修を中核として新学習指導要領に基づく教育課程の充実、ユニバーサルデザインの3観点である焦点化・視覚化・共有化を意識した授業の創造）
- 問題解決型の授業で、主体的・対話的で深い学びの実現におけた授業改善（考え、友達と議論し高めあう喜びを感じる授業）

○ICTの効果的な活用を図る（タブレットや大型ディスプレイ、デジタル教科の有効活用、プログラミング教育の継続）

(3) たくさんのかかわりの中で育む

○学年経営を充実させ、児童に寄り添った指導（交換授業、専科副担任制）

○たてわり班活動の充実、他者理解・他者尊重の向上

○低中高学年ブロックで、異学年交流の機会（様々な教科、運動会・遠足等の諸行事を活用して）

○地域を素材とした体験的な学習

(4) 安心・安全で、心地よい学校

○笑顔であいさつ（語先後礼の励行）、感謝の言葉をしっかりと伝える子の育成

○環境整備、安心・安全・きれいな学びの場づくり推進

○チーム矢崎として、教職員全員で協力し、子供の育成に関わる意識の醸成

4 今年度の取組目標

(1) 教育活動の目標と方策

① 確かな学力の定着を目指す教育活動の実践

ア 「矢崎スタンダード（学習規律）」を確立し、全校での定着を図る。

イ 個に応じた合理的配慮、ユニバーサルデザインの3観点（焦点化・視覚化・共有化）を意識した授業を実施し、どの子にも「分かる」授業を創造する。

ウ 朝学習（東京ベーシックドリル・eライブラリアドバンスの活用や読書活動）、家庭学習（学年×10分）で基礎基本の定着を図る。

エ 考え、友達と議論し高め合う喜びを感じる問題解決型の授業で、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。

オ 毎月1編の詩を児童に紹介し、全校児童での暗唱に取り組むことにより、語彙の獲得と豊かな言語感覚を身に付けさせる。

カ 大型ディスプレイやタブレット、デジタル教科書を有効活用し、視覚化・個別化を意識した授業を展開するとともに「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を図る。

キ 学力調査や体力調査の結果をもとに本校の課題を分析し、授業改善に活かす。また、作成した授業改善推進プランを学校だよりやホームページで公表する。

② 基本的な生活習慣の確立と豊かな心の育成

ア 笑顔であいさつ（語先後礼）を心がけ、感謝の気持ちをしっかりと言葉で伝えられる子を育成し、皆が気持ちよく過ごせる環境を作る。

イ 児童の生活アンケートを毎月実施し、いじめ防止の指導を徹底し、子どもたちの悩み等の解消に努めるとともに、いじめの早期発見、早期対応につなげる。

ウ 可能な限り早い時期に5年生とスクールカウンセラーの全員面接を行い、いつでも相談しやすい体制を作る。

エ 道徳の授業において、いじめ防止の授業を各学級で年間3回実施する。また学年内で道徳の交換授業を学期に1回（6・11・2月）実施し、教材研究の充実を図るとともに、児童理解を深める。

オ 防災教育を充実し、子どもたち自身で自他の安全に配慮して行動しようとする意識を育てる。

③ 健康教育の充実と健やかな体の育成

ア 体育科の学習の授業改善を図るとともに、体づくり運動を授業の中で充実させ、体力向上月間での短縄、長縄府中ロープチャレンジ、持久走の取組を通して、児童に運動の楽しさを体感させ、運動の日常化を図る。

イ 体育科の保健領域の学習や食に関する指導等を充実して、基本的な生活習慣をしっかりと身に付け、健康で安全に生活していこうとする資質や能力を育む。

ウ 給食主任を中心として、給食指導・食育・食物アレルギー事故防止対策等が組織的に推進できるように年度当初から保護者面談を進め、全校体制を早期に確立する。

④ 教職員の研鑽と指導体制の確立

ア 学級・専科経営案、年間指導計画、週毎の指導計画に基づき、常に計画・実施・評価・改善を行い、教育内容の改善・充実を図る。

イ 学習指導要領の趣旨を生かし、本校の児童の実態により即した「授業改善推進プラン」を7月中に作成し、日々の授業実践を通して検証・改善する。

ウ 主幹教諭や学年主任を中核とした OJT を推進し、経験年数の少ない教員の授業力や児童理解力の育成を日常的に図る。また計画的にミニ研修会を設定し、学ぶ集団としての組織的な学校の体制を確立する。

エ 自己申告に基づく授業参観と相互に指導・助言する機会を各学期1回設定する。

オ 校内研究で国語科における学習を通して、主体的・対話的に学ぶことのできる児童の育成を目指す。

カ 年間行事予定に入れる諸会議を精選し、教材研究に充てる時間や児童と向き合う時間を確保する。

キ 副校長等校務改善支援員や学校経営支援員、ICT 支援員を効果的に活用し、計画的・効率的な校務のPDCAを展開する。

ク 専科教員等を交えた拡大学年会を学期に1回以上行い、できる限り多くの目で児童を見守る。

⑤ 開かれた学校づくりの積極的な推進

ア 道徳授業地区公開講座、授業公開などの実施に当たっては、感染症対策を施しながらできるだけ多くの参加者が来校できるようにするとともに、意見交換等を通して家庭・地域との連携を深めることができるよう、時間の設定及び内容の工夫をする。

イ 保護者・教職員を対象とした学校評価アンケートを実施する一方、子どもが行う自己評価の項目を共通化することによって、認識の違いを客観的に認識し、教育活動の改善に反映させる。

ウ 地域コーディネーター及び矢崎小スクール・コミュニティ協議会委員を中心に、学校支援に向けた地域の力を結集して協働体制を築き、地域の特色を生かした学校応援団づくりを目指す。

エ 副校長等校務改善支援員・学校経営支援員・ICT 支援員を最大限に活用し、校務の整理を進

めるとともに学校だより・ホームページ（学校ブログ）・学校内掲示等を通して、本校の特色ある教育活動の様子を積極的に発信する。

オ スクール・コミュニティ協議会主催事業として漢字検定及び算数検定を年1回ずつ実施する。

カ 市教育委員会・たち・児童相談所・警察等外部機関との連携を深め、迅速かつ的確な問題解決を図る。

⑥ 「小中連携・一貫教育の充実」に向けて府中第三中学校・南町小学校と連携する。

ア 「学び」と「育ち」の連続性の推進を図り、「学び」では、教科の授業展開を小中が連携して取り組み、学びの連続性を実現していく。「育ち」では、重点指導課題を定め、連携した指導を行う。

イ 年3日確保されている「小中連携の日」には相互授業参観の後、各分科会を中心に小中での実際の交流場面を洗い出し、実現していくとともにさらなる充実した活動を見出す。

ウ 管理職同士の連携を密にするとともに、コーディネーターを活用し、連携強化、活動の創造を促す。

(2) 重点目標（数値目標）

- ① 毎日の学校生活が楽しいと思える児童90%以上
- ② 学校の授業がよくわかり楽しいと思える児童85%以上
- ③ 漢字・計算の定着率が1～3年生90%以上、4～6年生85%以上
- ④ 本を読むことが好きだと思える児童90%以上
- ⑤ 家で「10分×学年」の家庭学習をする習慣が身に付いている児童80%以上
- ⑥ 自分からすすんであいさつをする児童90%以上
- ⑦ 学校のきまりを守って行動する児童90%以上
- ⑧ 遊んだり相談したりする友達がいる児童90%以上
- ⑨ 「自分にはよいところがある」と考える児童85%以上
- ⑩ 自分の安全を自分で守ろうと心がけている児童90%以上